

# BANZAI NEWS

2022  
Autumn  
324

MSTシリーズ初の無線接続!

Windows10搭載タブレット!!

NEW



OBD車検の時代へ、  
整備ビジネスを変えるフラッグシップモデル登場!

整備用スキャンツール

# MST-nano

- メンテナンスモード
- DPFモード
- 車両登録機能
- QRコード読取
- 高耐久タブレット採用
- エイミング機能
- LEDライト
- 印刷機能

国産乗用車／国産トラック・バス／輸入車合わせて**23メーカー**に標準対応

特集  
BANZAI NEWS

相次ぐ法令改正を  
チャンスにできるお店作り

BANZAI 株式会社 バンザイ

本社  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6880  
E-mail: eigyo@banzai.co.jp

営業部  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6881

海外販売部  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6894

札幌支店  
札幌市西区24軒1条7-3-10  
TEL 011-621-4171

仙台支店  
仙台市宮城野区福室2-8-21  
TEL 022-258-0221

関東支店  
埼玉県北本市朝日4-553  
TEL 048-590-3700

東京支店  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6840

名古屋支店  
名古屋市千種区青柳町6-26  
TEL 052-732-2600

大阪支店  
大阪市長田東3-3-11  
TEL 06-6744-1041

広島支店  
広島市西区南観音2-7-10  
TEL 082-233-3201

福岡支店  
福岡市博多区那珂5-3-15  
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡  
郡山・山形・新潟・長野  
前橋・宇都宮・水戸・埼玉  
千葉・横浜・静岡・多摩  
北陸・三重・京都・神戸  
高松
- 出張所 帯広・函館・富山・松山  
岡山・山口・山陰・長崎  
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ九州販売(株)  
バンザイ沖縄販売(株)

<https://www.banzai.co.jp>



ISO9001-ISO14001  
自動車整備用診断・検査用機器の設計・開発・販売及びサービス  
バンザイでは「顧客第一主義」を信条に  
お客様とのきずなを大切に、  
お客様満足度の向上を図っております。





メタセコイアの並木道と落葉 —— 滋賀県高島市 マキノ高原

琵琶湖の湖西、マキノ高原へとつづくメタセコイアの並木道。メタセコイアは「生きた化石」として知られ、約80年前に中国で発見された原木から世界に広まりました。約2.4キロにわたって続く並木は秋にはオレンジ色に輝く紅葉のトンネルとなって、行楽で訪れる人々の目を楽しませてくれます。

### ★歳時記

- 11月 3日 文化の日
- 7日 立冬
- 15日 七五三
- 23日 勤労感謝の日
- 12月 22日 冬至
- 25日 クリスマス



### ●目次

#### ★特集

「SMART」サービスショップ作りのために必要なことは? ..... ①  
【第3回】相次ぐ法令改正を  
チャンスにできるお店作り

#### ★モデルショップ訪問

【三菱ふそうトラック・バス株式会社 南関東ふそう 春日部支店】..... ⑥  
物流の要衝、南関東エリアをターゲットに  
最大規模・最新コンセプトの拠点が完成  
【富士スバル株式会社 高崎店】..... ⑧  
最新機器でサービスの環境づくりと  
スバルファンの高度なニーズに対応

★ショールーム ..... ⑩

★EPOCH アウトメカニカ・フランクフルト2022..... ⑭

★ロータリー..... ⑯

# 特集

BANZAI NEWS

## 「SMART」サービスショップ作りのために必要なことは?

(SMART=Sustainable mobility actions realize tomorrow. (持続可能なモビリティアクションで未来を実現します。))

### 第3回 相次ぐ法令改正を チャンスにできるお店作り



「CASE」(=Connected(コネクテッド)、Autonomous(自動運転)、Shared & Services(シェアリング)、Electric(電動化))と呼ばれる先進技術が過去10年間で急速に進化・普及し、自動車業界に「100年に一度の大変革期」が訪れました。その一方で少子高齢化がますます深刻化するとともに、高齢ドライバーによる重大事故が顕在化し、大きな社会問題となっています。

このような状況の変化を受けて政府は近年、道路運送車両法をはじめとした自動車関連法令を相次いで改正しており、今後順次施行される予定となっています。

当連載「『SMART』サービスショップ作りのために必要なことは?」、3回目の今回は、このような法令改正をピンチではなくチャンスと捉え、収益拡大に活かすことができるお店作り、その方法について考えたいと思います。

## 「電子制御装置整備」の 認証取得から一歩踏み出し 他社との差別化を図るには？

「CASE」(=Connected(コネクテッド)、Autonomous(自動運転)、Shared & Services(シェアリング)、Electric(電動化))と呼ばれる先進技術のうち、特にA(自動運転)とE(電動化)の進化・普及に端を発する法令改正は、本誌前号の特集でもいくつか、その概要とどのように対応すべきかをご紹介しました。

具体的には、「特定整備認証制度」の開始(2020年4月)、12ヵ月点検への「OBD点検」追加(2021年10月)、衝突被害軽減ブレーキの装着義務化(2021年11月)、「OBD検査」の開始(2024年10月)が、それに当たります。

加えて、2022年5月にはバックカメラなど後退時車両直後確認装置、同年7月にはEDR(Event Data Recorder. 事故情報計測・記録装置)の装着が義務化されました。

今回は、これらの法令改正をどのようにして収益拡大に活かすか、を中心に考えていきます。

まず特定整備認証制度ですが、レベル2以下のADAS(先進運転支援システム)およびレベ

ル3以上の自動運転システムに対する点検整備、つまり「電子制御装置整備」の認証を取得するには、人と場所、設備に対し相応の投資が求められます。また、実際に各種センサーのエイミングを行うには、基準に適合した「整備用スキャンツール」のほか、入庫車両に対応するターゲットなどの専用器具と、点検整備の手順が記されたマニュアルなどの情報も入手する必要があります。

しかしそれだけでは、あくまで最低限の基準を満たしただけで、他のサービスショップに対する差別化要素にはなり得ません。

前々号で詳しくご紹介しました、洗車などによる汚れの除去から始まり、作業前のスキャンツールを用いた故障診断、その後のボディーアライメント・タイヤ空気圧・ホイールアライメントの測定・

調整、ADAS用センサーのエイミング、そして再度の故障診断と試運転を行い、ADASが正常に作動することを確認する「トータルエイミング」を、サービスメニューとして導入することこそが、他社との差別化そして収益向上の鍵となります。

中でもボディーアライメントおよびホイールアライメントの測定・調整はそれら単体でも、サービスメニューとして導入しているショップは今なお決して多くはありません。だからこそ、ADAS装着車はもちろん非装着車においてもボディーおよびホイールアライメントの狂いがいかに直進性を損ない重大事故につながる可能性もあることを丁寧に説明し、事故後の修理時はもちろん車検入庫の際にも測定・調整を積極的に提案していただきたく思います。

次にOBD点検ですが、大型特殊自動車、被牽引自動車、二輪自動車を除き、自動車の年式等に関わらず車載式故障診断装置(OBD)が搭載されている自動車は全てその対象となります。また、乗用車、貨物車、特種車や自家用、事業用の区別に関係なく、12ヵ月ごとの実施が義務付けられています。

このOBD点検を事業として行う場合も「電子

制御装置整備」の認証取得が必須となりますが、12ヵ月点検の際にスキャンツールを接続して同様の点検整備を、OBD点検導入以前より実施しているサービスショップは少なくないでしょう。

しかしながら、そのために必要な技術・設備・時間への対価として、工賃はしっかり上乗せできているでしょうか？ また、なぜOBD点検を実施しなければならないのかを、カーオーナーに説明できているでしょうか？

スキャンツールを車両に接続して故障コードを読み取る、あるいは警告灯の点灯有無を目視すること自体は、さほど手間も時間もかからないことでしょう。しかしながら、故障コードが発生している場合、その解消のためにどのような整備が必要かを正しく判断するには、車両自体を見ただけでは分からないだけに(だからこそOBD点検が必要なのですが)極めて専門的な知識と技術が求められます。

それは、メカニックなら誰でもできるという性質のものではありません。そのことを、まずはサービスショップの皆様が自覚し、そのうえでカーオーナーに伝えることが肝要です。

続いて衝突被害軽減ブレーキとバックカメラなど後退時車両直後確認装置の装着義務化ですが、このこと自体が、事故防止および被害低減



国産乗用車8社・国産大型4社のカメラエイミングターゲット(別売)に対応する「マルチエイミングボードII」



ボディーアライメントを高精度で測定するコンピューター車両計測器「セレット・ナジャ3D」



非接触式ホイールアライメントテスター「タッチレス」



電子制御装置整備の「整備用スキャンツール」基準に適合した「マルチサポートツールMST-nano」



に大きな効果を発揮することの証左と言えます。

だからこそ、義務化前の車両に乗る、特に高齢のカーオーナーには、後付け可能な衝突被害軽減ブレーキやバックカメラ、ソナーなどの装着を積極的に奨めるべきでしょう。また、駐車場の店舗や歩行者がいる横断歩道への突進といった重大事故に直結しやすい、アクセルとブレーキの踏み間違いによる急加速を防ぐ後付けシステムも、非装着車のオーナーには、車検や12ヵ月点検などで入庫する際を見計らってぜひご提案下さい。

これらは、短期的な部品・用品の販売・取付収益向上のみならず、カーオーナーの命と生活を守ることを通じた社会貢献と長期的収益向上の観点からも、積極的に展開することを強く推奨いたします。

## EDR装着義務化は事故対応ワンストップサービス構築の好機!?

最後にEDRですが、これはエアバッグ制御用コンピューターに内蔵されており、一定以上の衝撃が加わるとその前後の速度、ブレーキ操作、ステアリング操舵角、衝突の大きさ、シートベルトの装着状況、エンジン回転数、アクセル開度、シフトポジションなど、車両の挙動に関する最大約100種類の詳細な情報を記録するものです。

日本では、ドイツの大手自動車部品メーカー・ボッシュの日本法人が2017年3月より、EDRの読み出し・レポート出力を可能にするツール「CDR」(Crash Data Retrieval)の販売を開始しました。と同時に、EDRに記録されたデータを解析し精度の高い交通事故損害調査を行う

「CDRアナリスト」のトレーニング資格制度を充足させ、以後は大手損害保険会社、事故調査会社、警察組織、自動車メーカー、自動車ジャーナリスト、そしてサービスショップの皆様が順次資格を取得し、「CDR」を導入しています。

そして、EDR装着義務化に関する保安基準改正が2021年9月に公布・施行されたことを受けて、ボッシュの日本法人はEDRからのデータ読み出し作業を専門とする「CDRテクニシャン」制度を同年12月に新設しました。

これらの動きは、今後レベル3以上の自動運転システム搭載車が一般販売されると、事故を起こした際にはその責任の所在を明確化する必要が生じることを見据えてのものでしたが、誤発進・急加速による重大事故においてもヒューマンエラーなのか車両の不具合なのかが争点となったことから、ますますその重要性は高まっています。

しかしながら、「CDRアナリスト」には高い専門性が求められるため短期間の増員・育成が困難なことから、資格取得者が絶対的に不足しているのが実情です。

「CDRテクニシャン」はそうした状況を打開すべく、「CDRアナリスト」が事故調査・分析に専念できる環境を整えるために作られたものですが、ここにサービスショップの皆様が事業および収益を拡大するチャンスがあります。

というのも、事故車両のEDRデータ読み出しに対応できれば、損害保険会社と連携して入庫誘導を受けられるようになる可能性が広がるからです。さらにステップアップして「CDRアナリスト」の資格を取得、加えて「トータルエイミング」

も可能となれば、EDRデータ抽出から損害査定、事故調査、車体修理、「トータルエイミング」まで一気通貫して請け負うワンストップサービスを構築できます。これが極めて大きな差別化要素となるのは言うまでもありません。

バンザイでは、「トータルエイミング」に欠かせない、高精度な三次元ボディー計測装置や車体修正機、ホイールアライメントテスター、スキャンツール、またエーミングの作業効率を大幅に高める位置出しツールやターゲットスタンドなどを幅広く取り扱っております。詳しくは当社スタッフへお気軽にご相談下さい。

今回は、「2050年カーボンニュートラル達成のための急激な電動化シフトにも慌てないお店作り」について考えてみたいと思います。



OBD点検啓発チラシ (出典：国土交通省)



EDRの概要 (出典：国土交通省)



＜EDRの作動イメージ＞



ボッシュのEDR抽出ツール「CDR」



# 物流の要衝、南関東エリアをターゲットに 最大規模・最新コンセプトの拠点が完成

三菱ふそうトラック・バス株式会社のディーラー南関東ふそうではこのたび春日部支店を移転、新築し、拡大する市場に対応する新たな販売・サービス体制を構築するとともに、「働く人の環境」を最大限に重視した最新店舗としてオープンしました。



外観、左A棟、右B棟



安全のため場内は一方通行とし、停車位置、通行区分を明示。

## 拡大する大型車市場へ、高品質サービスを提供

埼玉県の東部、春日部市内に完成した新春日部支店は国道4号バイパス、国道16号線からのアクセスの良い立地とともに、5300坪という広大な敷地に建設され、南関東エリアで最大級の拠点規模を実現するとともに、三菱ふそうの新たな拠点コンセプト「ミライ」プロジェクトの一環として、「高品質なサービスの提供」と「働く人の環境改善」を実現したものです。新春日部支店の立地する埼玉県東部は千葉県、茨城県と境を接し、関東北部へ、さらに東北地方への要衝に当たり、「近年は倉庫などの物流拠点や運輸業の進出がめざましく、とくに中・大型トラックの比率が拡大している地域性です」と春日部支店長の浮田一寿氏。旧支店のほぼ3倍の拠点規模で将来的なニーズ拡大への対応も可能としています。



春日部支店長  
浮田 一寿 氏



整備工場長  
松澤 朋尚 氏

## 幅広い大型車サービスに、最新機器をフルに導入

サービス工場は一般・車検整備10ストールからなるA棟、および検査ライン2レーン、電装・板金ストール、大型塗装ブースを導入したB棟からなっています。A棟左側5ストールは車検整備ストールとして2柱式キャタピラツインIIが2基、4柱式キャタピラツインII2基を設置。一般整備の右側5ストールは通過式として2柱式キャタピラツインIIを3基、2分割フロアリフトを2基、および1柱式スーパープラトンビッグリフト5基を前後に配置することにより1ストールで同時に2台の作業が可能となっています。またB棟には検査がスムーズに行えるよう検査ラインを2レーン配置、ネットワークシステムのほか荷重試験機、フォトセーバー、車両測定装置など検査員の負担軽減を実現する最新機器を導入しています。



A棟左側5ストールは車検整備ストールとして2柱式2基、4柱式3基を設置。

キャタピラツインIIとスーパープラトンビッグを前後にレイアウトした一般整備ストール。



一般整備2ストールにはフロアリフトを設置。



作業の効率化と環境改善にバキュームクリーナーと大型ランドリーを導入。



検査ラインは2レーン。荷重試験機のほか、車高測定装置、車体計測装置などデジタル機器も導入。



検査ライン2ストール、板金塗装場を併設したB棟。



全自動ヘッドライトテスターと、レール式エイミングボードを設置。



各種の車体修正に対応するフロアレールを敷設。



天井走行クレーンを設置した電装・車体整備ストール。

## 顧客の安全運行と、従業員の「働き甲斐」を追求

新店舗での工場計画にあたっては、「最新設備の導入とともに、整備作業のあらゆるケースをシミュレーションし、いかなる場合にも車両の滞留がないようレイアウトしました」と整備工場長の松澤朋尚氏。メカニックの動線、歩数を最小限とするため、周辺設備の配置にも細心の配慮がなされています。これら最新のサービス体制は長年の「ハード、プラス知恵と技術」により構築されたもの、顧客の安全でスムーズな運行をサポートするためのノウハウが集約されています。また同支店には周辺エリアの拠点との連携を図るための会議室などの設備も充実。さらに従業員のための銭湯風の浴場設備や、工場を周回するランニングコースも併設されるなど、安全と健康管理のための施策も盛り込まれています。「従業員の働き甲斐を第一に考え、一人一人の前向きな意欲向上につなげることが最大の目的です」(浮田支店長)と未来への抱負を語っておられます。



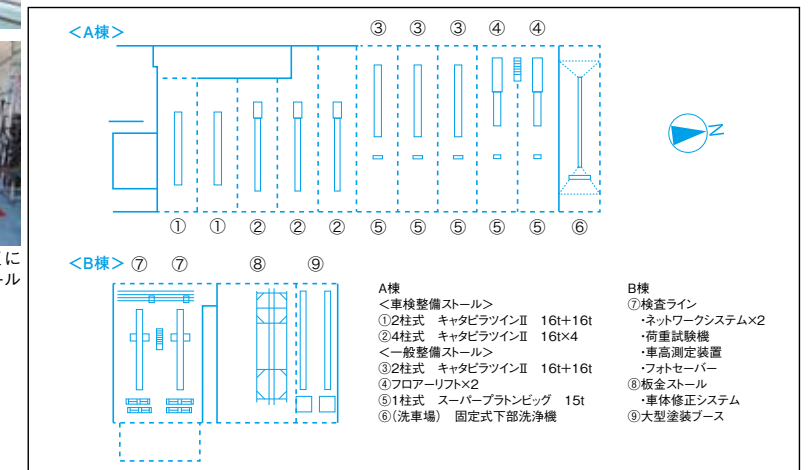
銭湯風に安らぎの空間とした「みらいの湯」。



働く人のコミュニケーションの場にもなっている。



高度な塗装仕上げを実現する大型塗装ブースも完備。





# 最新機器でサービスの環境づくりとスバルファンの高度なニーズに対応

群馬県内に新車・中古車店舗あわせて22拠点を展開するスバルディーラー、富士スバル株式会社ではこのたび、従来の高崎問屋町店の全面リニューアルを実施し、群馬県西部エリアにおける新たな基幹店舗「高崎店」としてオープンしました。



国道17号線に面した好立地、交差する「高崎環状線」からもアクセス可能。



お客様を迎える巨大なキャノピー。

ガラス張りのショールームはアピール効果抜群。

## 広域エリアを視野に最新の拠点づくり

今回の店舗計画について「旧店舗は経過年数も長年にわたり、ショールーム・サービス工場共に更新が必要となりました」と執行役員・店長の川田雅史氏。あわせて県西部の広域エリアにおける基幹店舗として、設備とキャパシティの両面で新たな拠点づくりが求められていたとのことです。新店舗は従来の中古車販売店部分も併せた敷地に建設され、ショールーム、サービス工場ともに旧店舗の約3倍の規模となっています。また販売台数の約9割を占めるというAWD車や水平対向エンジンなどスバル独自のメカニズムに対応する最新機器もフルに導入され、「走行性能などスバルファンのニーズに応える高度なサービスが可能になりました」と副店長の高山英之氏。将来的な市場拡大も視野に新店舗での対応を実現しています。

## 先進メカニズムに対応、高度なサービス体制

サービス工場は一般・車検整備に10ストール、アライメント専用1ストール、検査ラインのほか洗車場、加修ストールを併設しています。整備ストールにはイーグルFXリフト7基とタンデムリフト3基を導入し、ストールごとに、ツールキャビネットがそのまま収納できるシャッターとLED照明付きのシステムキャビネットとエアコンを配備してメカニックの作業性と環境を整え、さらに美観にも配慮されています。検査ラインにはAWD車に最適進化したスーパーマルチテスターを導入、またアライメントストールにはフラットワークステージとジオライナー、さらにコンビネーションテスターも設備し、足回りのほか法定12カ月点検にも対応を可能としています。これら最新の設備機器は各種の先進メカニズムに最適なサービスを実現する一方で、作業の効率化や環境の向上を図るものです。



執行役員 高崎店長 川田 雅史氏  
高崎店 副店長 高山 英之氏



キャノピーの背後にサービス工場がある。



左側ストールには検査ライン、イーグルFXを導入。



右側ストールにはアライメントストール、タンデムリフト、イーグルFXをレイアウト。



各ストールには、ツールキャビネットがそのまま収納できるシャッター、LED照明付システムキャビネットとエアコンを設備。



スーパーマルチテスターは検査業務の効率化と検査員の労力軽減にも効果を発揮。

ジオライナーで迅速、精密なアライメント計測に対応。検査ラインとは別にコンビネーションテスターも設備。



フラットな床面のイーグルFXリフトで高い作業性、安全性を実現。



洗車場は2ストール。門型洗車機と自動下部洗浄機も設備。

## 働く人の環境と、心地よい顧客対応めざす

先進技術への対応や働き方改革など、ディーラー拠点としての対応が求められる中で、「一定の作業を短時間で実施するため、メカニック、検査員への負担はむしろ増加しています」と川田店長。そのため「CSの前提として、まずESの向上が大切」として、作業環境の改善やデジタル化による省力化、労力の軽減が不可欠とのことです。「コロナ禍にあっても車販売は対面が基本です」と高山副店長。ショールーム2階にはカフェコーナーも併設。サービス、点検をお待ちになるお客様にゆったりと過ごしていただけるなどアメニティも万全。さらに3階にはイベントスペースも設けられるなど「スバルファンはもとより地域顧客の期待にも応える新拠点として活用していきたいですね」と抱負を語っておられます。



六連星を掲げるレセプション。

3Fには屋内外にイベントスペースを設け、各種の企画への活用が期待されている。



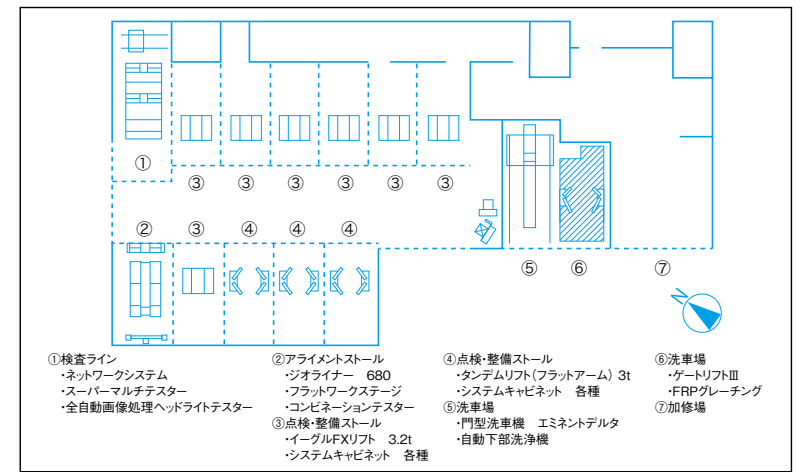
大画面液晶ビジョンでスバル車のコンセプトを発信。



1Fの商談ルームと2Fにはカフェ、ラウンジを配置。



2Fのカフェと吹抜けのショールーム。



- ①検査ライン
  - ・ネットワークシステム
  - ・スーパーマルチテスター
  - ・全自動画像処理ヘッドライトテスター
- ②アライメントストール
  - ・ジオライナー 680
  - ・フラットワークステージ
  - ・コンビネーションテスター
- ③点検・整備ストール
  - ・イーグルFXリフト 3.2t
  - ・システムキャビネット 各種
- ④点検・整備ストール
  - ・タンデムリフト(フラットアーム) 3t
  - ・システムキャビネット 各種
- ⑤洗車場
  - ・門型洗車機 エミネントデルタ
  - ・自動下部洗浄機
- ⑥洗車場
  - ・ゲートリフトⅢ
  - ・FRPグレーチング
- ⑦加修場



## 【画像目視型】ヘッドライトテスター HT519シリーズ

「HT-509 シリーズ」をモデルチェンジ、  
上位機種と同等の性能、操作性を実現。

- 上位機種の自動機HT-538で開発の画像基板、カメラを採用しています。
- 上位機種HT-538と同様に使用範囲30hcd から対応しています。
- CMOS カメラ高解像度化により車両正対画像がより鮮明になりました。
- 操作スイッチをジョグダイヤルからロータリープッシュに変更、操作性及び耐久性を向上しました。
- HT-538 の画面表示を踏襲し、選択されている灯種や状態が分かりやすくなりました。
- 水平カットラインの目安を簡易的にお知らせする機能として、カットライン調整補助機能画面を標準追加。(当社オリジナル機能)

### <SDカードオプション>

- ・測定値記録画面の SD 外部出力機能を追加。
- ・測定結果出力イメージ(JPEG データ)



SDカードオプション測定結果画面

### <操作スイッチパネル>

ジョグダイヤルからロータリープッシュに変更、操作性及び耐久性を向上しました。



操作スイッチパネル

### <調整補助画面>

水平カットラインの目安を簡易的に知らせる機能として、すれ違い灯カットオフ有測定モード内にカットライン調整補助機能画面を標準追加し、参考水平カットライン及び参考最高光度値の表示を行います。(※当社オリジナル)



調整補助画面



## ■仕様

型	式	HT-519シリーズ	
測定方式	画像目視方式		
測定距離 (m)	1		
使用範囲	光度 (hcd)	30~1,200	
	照射方向 (cm /10m)	走行灯	上 15~下 35 左 30~右 30
		すれ違い灯	上 10~下 35 左 30~右 30
	高さ表示 (cm)	25~120 (前部霧灯取付高さ対応)	
電源 (V)	AC100		
本体寸法 (mm) (HT-5192)	700(W) × 640(D) × 1,438(H)		
重量 (kg)	約 60		

## 【フロンガス交換機】全自動フロンガス交換機 R134a/R1234yf兼用 RSA-780T

10インチ大型タッチパネルモニター搭載。  
無線LAN通信機能で社内のプリンターへ出力が可能。

- 大型液晶タッチパネルモニターを採用。
  - ・10インチ大型液晶ディスプレイを採用。操作はシンプルでさらに簡単に。
  - ・サービス開始時の手順を1画面にまとめ、より迅速な操作が可能になりました。
- 無線LAN通信機能を搭載。
  - ・無線LANが使用可能な環境では下記の機能が使用できます。
  - ・社内プリンターとの接続、作業データの出力。
  - ・ソフトウェアの自動更新。
- 自動内部フラッシングシステムを搭載。

### ■全自動モード

エアコンラインの状態を診断しながらの全自動モード

- ・ガス回収(増圧テスト)※1
- ・真空引き(真空保持テスト)※2
- ・ケミカル充填(オイル/蛍光剤)

※1増圧テスト:回収後のエアコンライン残留ガスをチェックし確実な回収を行います。

※2真空保持テスト:エアコンラインの漏れチェックを行います。

### ■単独モード

作業内容に合わせて個別に設定できる自動モード

ガス回収・真空引き・ガス充填・真空引き+ガス充填(ケミカル充填)などの単独作業が可能



## ■仕様

型	式	RSA-780T
回収方式	圧縮方式 液化	
回収能力 (g/min)	100 (※3)	
真空ポンプ (L/min)	100 (2ステージ)	
適用冷媒	R134a/R1234yf	
回収容器 (L)	14.7×2本	
圧縮機の定格 (W)	250 (1/3HP)	
再生方式	フィルター吸着方式	
環境温度 (°C)	5~40	
電源 (V)	AC100 50/60Hz	
外形寸法 (mm)	約 600(W) × 約 729(D) × 1,200(H)	
重量 (kg)	129	

※3 JIS B 8629((社)日本冷凍空調工業会冷媒回収促進・技術センター冷媒回収装置性能基準RRC7002-1999)による



# SHOW ROOM

## 【インストラクター】インストラクター PTS-IST 【ハブナット トルクレンチ】パワートルクセッター PTS-800ESL-R

光の点滅で締付け順をサポート。大型車ホイールの締付ミスを防止。

### <PTS-IST(インストラクター)>

- ランプの点滅・点灯でナットの締付け順・締付済みを表示。
- マグネットでハブに装着、孔数を選択するだけで作業開始の簡単操作。
- 仮締め ▶ 本締め ▶ 増し締め、3工程に対応。
- 締付トルクをデジタル表示。

### ■仕様

ホイール孔数	5孔、6孔、8孔、10孔
表示	LEDランプ 20個 / 7セグメント LED3桁
操作キー	電源、5孔、6孔、8孔、10孔
作業工程	仮締め、本締め、増し締めに対応
質量 (g)	290(本体+電池) / 420(マグネット含む)
電源	単 3×2本



ホイールナットに取付けた「インストラクター」が締め付けの順番をLEDの光で案内。

### <PTS-800ESL-R(パワートルクセッター)>

- PTSの締め付け結果を無線送信。
- PTS 1台に複数のPTS-ISTを接続可能。
- 4つのトルクをワンタッチで切替え。1N・m単位でトルク設定。
- 緩め機能も最大800N・mで可能。

### ■仕様

トルク設定範囲 (N・m)	300~800
トルク分解能 (N・m)	1
トルク精度 (%)	±5 (300~399N・m:±7)
プリセット数 (ch)	4
無線周波数/電波出力 (MHz/mW)	920/10
無負荷回転数 (rpm)	125
空気消費量 (m <sup>3</sup> /min)	0.56 0.6MPa時
質量 (kg)	11.5
電源	単 3×6本



## 【ハブボルト・ナット用クリーナー】MBC-30S ボルトクリーナーセット

ハブボルトの確実な締結に、  
汚れ・サビを簡単に除去。

- 各種ボルト/ナット径に対応するブラシをセット。
- ボルト・ナットの汚れやサビを落とすことで、締付トルクが維持されやすくなり、緩み防止になります。

### ■仕様

型 式	MBC-30S
回 転 数 (rpm)	1800
質 量 (kg)	1.1
全 長 (mm)	165
無負荷時空気消費量 (m <sup>3</sup> /min)	0.5 (0.6MPa時)
エアインレット (PT)	1/4
ホ ー ス 内 径 (in/mm)	3/8(9.5)



ホイール取付けの際の点検時、関連部分を清掃し、サビ・ゴミ・泥・追加塗料などの異物を取り除くことが、「道路運送車両法(改正後)の点検基準」として、義務付けられています。

# SHOW ROOM

## 【廃油処理】ドレンキャビネット DCB-300V

廃油処理を清潔、簡単に!  
廃油ストレージタンクへらくらく圧送!

- 油槽はステンレス(SUS)製を標準装備。
- 廃油の圧送操作がフットペダルで簡単に!
- 新機構でメンテナンス性が大幅向上!
- オイルドレン製品からの廃油抜き取りも可能。

### ■仕様

型 式	DCB-300V	
廃油排出量 (L/min)	油受け	約 27.7
	ホース	約 24.6
シンク(L)	最大 30	
ホース(m)	吸込側	1.0 (φ 26×φ 19)
	排出側	0.7 (φ 26×φ 19)
ポンプ供給エア圧 (MPa)	0.2~0.7	
重量(kg)	約 41.5	



## 【ペール缶/一斗缶スタンド】

- ハンドルの上下でペール缶/一斗缶から他容器への移し替えが容易。
- 溶剤用にステンレス(SUS)製をラインナップ。
- こぼれ防止にポリ蛇口が標準付属。
- 1段式は移動が容易な車輪付き。



### ■仕様<ペール缶用>

型 式	PK-20	PK-20W	PK-20S	PK-20WS
材 質	スチール		ステンレス	
段 数	1	2	1	2

### ■仕様<一斗缶用>

型 式	KK-18	KK-18W	KK-18S	KK-18WS
材 質	スチール		ステンレス	
段 数	1	2	1	2



# 「アウトメカニカ・フランクフルト2022」 世界に向けて、4年ぶりに従来規模で開催



中央駅からも近い、メッセ・フランクフルトのエンタランス。

自動車業界で大きな潮流となっている電動化や自動運転化など、さまざまな技術革新が自動車サービス・メンテナンスの分野にも変化をもたらしている中、世界最大の自動車アフターマーケットの国際見本市「アウトメカニカ2022」が、4年ぶりとなる大規模展示会として9月13日から5日間、ドイツ・フランクフルトで開催されました。



3ホールでは「パーツ&コンポーネンツ」を展示。

## 先進サービス分野を含め8エリアで展示

世界最大級の展示会場、メッセ・フランクフルトで開催された「アウトメカニカ2022」には、世界70カ国から2,804の企業・団体が参加、日本からは10社が出展し、19のホール及び屋外展示場で製品とサービスの展示が行われました。

会場では「アクセサリ&カスタマイジング」、「ボディ&ペイント」、「カーウォッシュ&ケア」、「タイヤグノーシス&リペア」、「ディーラー&ワークショップマネジメント」、「パーツ&コンポーネンツ」、「エレクトロニクス&コネクティビティ」など、注目される最新の自動車ビジネス分野も含め、テーマ別に8つのエリアに分けてブースが出展されました。



入場は事前WEB登録制で、スマートフォンかプリントアウトしたQRコードを読み取ってもらう。プリントした用紙を4つ折りにして使用する。右上が入場券。



広大な会場に8つのエリアに展示ブースを展開。



足回りの展示エリアでも各種プレゼンテーションが見られた。



タイヤグノーシスも大きな潮流に。

## 注目のエイミングはレベル3を視野に

世界的な市場の動向として、とくにデジタル化、代替駆動システム、電気自動車の増加が著しく、販売・サービスでの大きな課題となっています。今回の「アウトメカニカ2022」では新たなビジネス分野におけるプレゼンテーションや自動車専門家向けの無料ワークショップなど、350以上のイベントが提供されたことも特筆されます。

足回りのエリアでは、日本でも新たなサービス分野として注目される「エイミング=ADASキャリブレーション」においても各種システムが展示され、アライメントテスターと合わせて一連の流れ作業としてシステム提案するもの、日本のレベル2に相当する前



EVを並べるバイスバース社のブース。

方だけでなく、レベル3を視野に車両全周囲カメラへの対応を強調するものなど、各種の展示が行われていました。またエイミング校正ボードをモニターや電子ペーパーなど「デジタル化」して表示させているブースも多くみられました。

## 拡大するアフターマーケットに期待

「アウトメカニカ2022」では5日間の開催期間中、175か国から7万8000人の来場者を集め、規模自体はコロナ以前とは比較にならないものの、リアル会場での対面型展示会として、高い安全・衛生基準の下で開催されたことは今後、市場のさらなる活性化に貢献するものと期待されています。



話題のF1マシンも展示。



アライメントテスター「ジオライナー」を展示するホフマンのブース。



バイスバース社製のADASボードと校正ボード。



大型車でもエイミング対応をアピール。



## 各地の展示会で、安全な作業への情報を発信



各地の展示会で安全啓蒙コーナーを開設し、各種情報を発信。  
(オートアフターマーケット東北2022)



パネル展示のほか、実際の摩耗・劣化部品、新品部品も比較して展示。

コロナ禍で見合わされてきた各種の行事やイベントも、国内外で開催の動きが活発になっているなか、サービス機器の展示会も、今年はようやく各地で開催される運びとなりました。

バンザイではこれら展示会への出品、出展のほか各種情報のご提供を行っていますが、本年は本社サービス部が中心となって「安全啓蒙コーナー」を設け、サービス機器の適切な取り扱いと働く人の安全と、健康管理にお役立ていただける情報発信を行っています。

全国各地の展示会では、「リフトの安全点検」、「塗装ブースの安全点検」、「事故ゼロを目指して」の3つのテーマを柱として、日常使用するリフトや塗装ブースなどを安全に使用するためのチェックポイントなど、パネル展示のほか劣化・新品部品の実例を比較展示するなど、日常のサービス作業に潜む危険性をアピールする内容となっています。

バンザイでは今後も皆様のサービスにお役立ていただける情報発信を行ってまいります。



ワイヤー、チェーンなど点検のポイントを実際の部品で紹介。



ES向上、作業環境改善への意識が高まっている折から、お客様から高い関心が寄せられています。  
(第13回青森県自動車部品商組合合同展示会2022)

バンザイは安全サービス推進のため、各種ツールをご用意しています。



### 編集後記



ちょうど2年前の2020年Autumn号にも編集後記を担当させていただき、2年が経過した今「今までの生活(様式)」がベストだったのか?と自分自身に投げかけました。この2年間サラリーマンとしての私の働き方に大きな変化はなく、展示会は軒並み中止(延期)となり、個人としては「無駄な出費」と「思い出」が減

りました。結果、どちらも経済活動の減少に。しかし、2022年秋は各地にて展示会が毎週開催され、賑わいを取り戻してきました。やはり、今まで通りがベストであると感じました。

<河野>